

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

き」が語られています。後のグノーシス主義に影響を与えたことから知られるように、ヨハネ福音書は秘儀的要素を多分に含む文書ですので、現代世界に生きるわたしたちにとっては、いかにも古代世界の宗教文書といった印象を受けるのだと思います。とりわけ、ヨハネ福音書では神とイエスとの関係は秘儀的に合一しており、相互性を持って一体化しています。したがって、近代の合理性や客観性を重視する科学主義に基づけば、ヨハネ福音書に典型的に表されている宗教的な「導き」は無意味で無価値なものに映ずるかもしれません。しかしながら、みなさんが酪農学園大学に入学し、このようにこのキャンパスで出会っているのも、——前学期のキリスト教教育強調週間の講師である循環農学類の義平大樹先生の言葉を借りると——偶然ではなく、必然だと言えるのではないのでしょうか。そして、それは神とイエスの「導き」を信じ、93年前に本学園を設立した黒澤西蔵先生の歩みにも典型的に現れているように思えるのです。その黒澤先生が提唱した「三愛精神の源」には「イエスを信じる」というキリスト教への「導き」があったのです。みなさんが本学に導かれ、この先の未来にどこにどのように導かれるのか、これからのみなさんの歩みが楽しみです。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。礼拝の前と後に練習しています。歌ってみたい学生はオルガン前にお越しください。後学期も聖歌隊のみなさん、よろしく願いいたします。



《2026年7月28日の聖歌隊のさんび》

【次回の大学礼拝】2026年10月6日（火）10時40分

聖書：ローマの信徒への手紙 12章 19-21節

奨励：「映画ちいかわ人魚の島の秘密 [ネタバレ大注意]」

高橋優子（獣医保健看護学類教授）

讃美歌：Shine, Jesus, Shine, As The Deer（両曲ともに英語＋日本語）

【前回の大学礼拝（前学期終業礼拝）】2026年7月28日（火）

学生：82名 教職員：10名 合計：92名

【大学礼拝週報】2026年度 第16号（後学期第1号）

2026年9月29日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

後学期始業礼拝

司式 小林昭博（宗教主任・循環農学類教授）

奏楽 佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）

讃美指導 相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前奏 高きにいます神にのみ栄光あれ（J.C.バッハ作曲）

讃美歌 21 482番（わが主イエス）

聖書 ヨハネによる福音書 6章 44-47節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨励 「イエスを信じる——三愛精神の源」

祈り 小林昭博（宗教主任）

讃美歌 酪農讃歌（黒土よ）

報告

後奏 汝の道を示したまえ（ゲーテ作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書 6章 44-47節（新共同訳）

44 わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。45 預言者の書に、『彼らは皆、神によって教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。46 父を見た者は一人もない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。47 はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。

【奨励】「イエスを信じる——三愛精神の源」

本日の聖書は宗教的な「導き」を背景に記されています。ヨハネ福音書では、神によってイエスに至り、イエスを通して神を知る関係として「導